

Parité

西東京市男女平等参画情報誌

パリテ

2016.10

Vol.17

特集

男性の生きにくさ、 シンドさを読みとく

田中俊之さん（武蔵大学社会学部助教）

西東京市男女平等推進センター
パリテ

男女 平等参画社会は、男女が共に
様々な分野で活躍できる社会です。
仕事も生活も楽しめる、
そんなライフスタイルについて
考えてみませんか。

contents

- p5 「家族で地域で子育て、孫育て、たまご育て」 棒田明子
- p6 **パリテ INFORMATION**
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
「女性活躍推進法」ってなに？
- p7 **パリテ・ライブラリー**
ステキに男女平等参画！ in 西東京
「男性の活躍」編 「父親の子育て」の役に立ちたい!!
- p8 西東京市男女平等推進センター「パリテ」企画運営委員 紹介

男性の生きにくさ、シンドさを読みとく

大学時代、周りの男子学生が卒業するとみんな就職していく様子に違和感を持ったことが、「男性学」を研究するきっかけになったと語る武蔵大学社会学部助教田中俊之さん。男性はどのようにしてそんな「働く」と「当然のよう」に求められるのでしょいか。日頃から社会、企業での男性のあり方について見直しを訴える田中さんのお考えを、7月1日に住吉会館ルピナスで行なわれた講演でお伺いしました。

女も大変だけれど、男もシンドイんだ！

男性中心型労働慣行はシンドイ

女性の活躍、女性の社会進出を考えると、結婚、出産、育児にかかる女性の負担を軽減し、ずっと働き続けられる環境を整備することはとても大切なことです。そのため、内閣府の第四次男女共同参画基本計画にも「男性中心型労働慣行等を変革し、職場、地域、家

庭等あらゆる場面における施策を充実させる」ことが明記されています。「ここにある男性中心型労働慣行とは、1日8時間、週40時間が「最低限」の労働時間であり、それ以上を「普通」とみなす慣行である」と私は解釈しています。「この定義されるのは、女性にとっても同様に、男性にとってもシンドイことです。男性学とは「男性問題」、つまり

男性が男性であるがゆえに抱える悩み、葛藤を対象にした学問です。働きすぎ、自殺、過労死、平日昼間問題男性が昼間に歩みづらいうこと、地域に居場所がないなどの問題が挙げられますが、いずれも男性が働きすぎることと良しとする社会によって引き起こされる問題と言えます。働きすぎや過労死は言うに及ば

ずですが、平日昼間問題も男性にとって深刻です。男性は昼間、ずっと仕事に拘束されており、それ以外の場所に行くことは無理な状況です。私の場合で言うと、「こんなことがありました。妻が5カ月の子どもを連れて体操教室に行き、ぎゅぐり腰になったので、私が迎えに行きました。妻が整形外科に行ったあと、子どもの面倒を見る人が必要

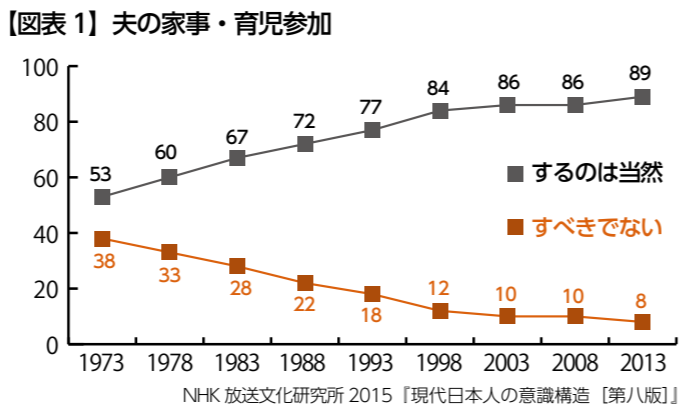
Profile

田中 俊之 (TOSHIYUKI TANAKA)
武蔵大学社会学部助教

1975年、東京都生まれ。博士(社会学)。社会学・男性学・キャリア教育論を主な研究分野とする。「日本では“男”であること“働く”ということの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている男性学の第一人者。著書に『男性学の新展開』青弓社、『男がっらいよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書、『男が働かない、いいじゃないか!』講談社+α新書

まじめな男性ほど追い込まれている

「男性も家事・育児参加への日本人の意識は73年当時」するの「は当然」とすべきでない」が拮抗していたのに対して、13年には9割近くが「するのは当然」と回答し、大きく変化しています(図表1)。しかし男性が働きすぎざる状態が改善されないのに、家事・育児の分担も求められるのは男性が「つらすぎます。まじめな男性ほど両方こなそうと頑張ってしまう、追い込まれている状態です。」



争に意味がありました。常に上昇し続けていたから、競争することでさらに上を目指しました。しかし日本は今、低成長なのに、上に行けという習慣だけが残っているのは問題です。見栄は今の社会では何の価値もないのです。」

見栄の代わりに、真の意味の「プライド」を持つべきです。人と比べず、自分が欲しいものを求める。自分のしたい仕事をやる。試行錯誤してやり方を確立したら、誇りを持って、曲げずにいるようにしてほしい。「弱くはいけない」という周囲のすりこみを気にしていたら、男性はどんどん追い込まれて、うつ病になりかねません。プライドを持って、自分なりの価値観で行動しましょう。」

仕事だけが人生じゃない もっと自分を大切に

「社会人」という言葉は英語には存在せず、敢えてあてはめると「会社員(Office Worker)」とほぼ同義になります。しかし会社で働くだけが社会人ではありません。社会人は職業領域、地域領域、家庭領域、個人領域の4つのバランスをとった

男ならあたりまえではない

見栄ではなくプライドを

男性はプライドがあるから無理してしまつてよく言われます。男は強くなければいけない、苦痛を乗り越えないといけないと考えてしまいがちです。しかし私に言わせればそれはプライドではなくて見栄です。

見栄というのは、他人との比較で自分の上下を決めることです。男性は小さなころから競争するよ

う、あおられて育てられます。勝ち抜き競争の最たるものが「野球選手」ですが、息子に野球選手になれとけしかける親はいつかいます。息子が野球選手を夢にすると喜びます。しかし高校、大学へと進んでも息子がまだ言い続けていると、「いつまでも夢を見るな」と怒り出します。これは奇妙な話です。それなら最初から息子をけしかけなければいい。高度成長期なら、競

争に意味がありました。常に上昇し続けていたから、競争することでさらに上を目指しました。しかし日本は今、低成長なのに、上に行けという習慣だけが残っているのは問題です。見栄は今の社会では何の価値もないのです。」

形をとりえてほしいです(図表2)。

ワーク・ライフ・バランスの「ライフ(Life)」には生命・生活・生涯という3つの意味

があります。日本では2番目の「仕事と生活のバランス」という意味でしかとらえられていませんが、他の2つも非常に大事です。まず「仕事

職業領域 収入を得ることを目的として社会的分業に参加	地域領域 互いの生活の豊かさを求めて合意を形成
家庭領域 衣食住という日常生活行動を共有	個人領域 社会的役割から距離を置いたプライベートな領域

と生命のバランス」について、働かざる命を失ってしまうのが過労死ですが、そもそも私たちは生きていくために働いているのだから、仕事で命を失うのはおかしい話です。「仕事と生涯のバランス」について、働く期間は人生の一部にすぎません。仕事が生涯の全部と考えてしまうと、定年してから20年間ずっと、人生の意味を失ってしまいます。ワーク・ライフ・バランスの意味を再考する

性別にとらわれない多様な生き方の実現

「コミュニケーションで関係構築」

仕事だけにとらわれず、夫婦のコミュニケーションを増やしていくことで、男性はもっと生きやすくなります。日本の男性は結婚すると安心してしまつて、肝心の夫婦関係を築くことを忘れていている傾向があります。これは大問題です。子育てという共同作業があるうちは良くても、子どもが巣立ったあと、夫婦関係を築けていない

と、熟年離婚してしまうリスクが高いです。「コミュニケーション」は、問題解決を目的とした「要件伝達型」と相手との共感を目的とした「関係形成型」の2種類があります。男性は要件伝達型に偏る傾向があり、夫が妻と話す時、結論を求めがちです。しかし妻にとって多くの場合、「コミュニケーション」は結論を出すことよりもむしろ、一緒に話して、共感を得ることに意味があるのです。

男性は、関係形成型の「コミュニケーション」をもっと学ぶべきです。無駄話には関係形成という大きな意味があります。まず相手の話を聞きましょう。そうすれば相手に信頼され、こちらの話も聞いてもらえるようになります。そこから関係が構築されていきます。

「消極的寛容から積極的寛容へ」

地域社会に対する態度も同様です。現代人は寛容だと言われますが、異なる価値観の人と分かちあおうという姿勢ではなく、自分に関係ない、好きにすれば、という無関心によるものであればそれは「消極的寛容」に過ぎません。それよりも、地域に住むいろいろな価値観を持つ人と交わっていくことで、地域社会と良いつながりができ、お互いに助け合えるようになる「積極的寛容」が望ましいです。行政の実施するイベントなどを活用し、地域の活動に積極的に参加すれば、男性は自分の居場所ができるし友達もできます。定年退職後の地域の方に、急なトラブルのときに子どものお世話をお願いでき

【男性が参加できる地域の講座】

【親子対象講座】グローバル教育ってなあに？ 国際人になるための はじめの一步
ゲーム等を通して考え方や価値観の違う人たちとの付き合い方を体験してみよう！
【対象】市内在住の小・中学生とその保護者
【日時】28.10/23(日) 13時30分～16時40分
【会場・申込】ひばりが丘公民館(042-424-3011)まで

【地域で楽しむ料理講座(パート3)】 申込は10/20まで!
メンズクッキング～スパイスカレー～
体に良くて本当は簡単！スパイスカレーと一緒に作りませんか？
【対象】市内在住・在勤・在学
【日時】28.11/3(木・祝) 10時～13時
【会場・申込】田無公民館(042-461-1170)まで



『不自由な男たち』著者：田中俊之×小島慶子 出版：祥伝社新書

るようになるかもしれません。そうすれば、夫婦だけで背負っていた育児の負担は軽くなります。定年退職後の地域の方も、やりがいを見いだせるようになるでしょう。夫、妻、地域社会、すべてに良い面があります。

「ささえあいの輪を」

地域のシニアと子ども、子育て世代がつながることで、地域の防犯、災害時の減災にもつながります。阪神淡路大震災のときに、救助隊に助けられたのはわずか1.7%、家族が31.9%、28.1%の方は近所の人に助けられています。

子どもが事件に巻き込まれたときには、一番の情報は目撃情報、それとその子どものことを知っている人がどのくらいいるかがカギと言われています。多世代のご近所さんの輪が広がると、子どもにも大人にも笑顔が増えますよ。

家族で地域で 子育て、孫育て、たまご育て

棒田 明子
(NPO法人 孫育て・ニッポン 理事長)

10時間以上母子一人きり60%以上

少子高齢化が進み、日本の子育て事情も大きく変化しました。一昔前までは、産後は実家で過ごし、その後大家族の中で、多くの人の手を借り、子育ての知恵を授かりながら、親は子育てをし、子どもいろいろな大人にかわいがられて大きくなりました。

しかし、現在は出産年齢の高齢化、祖父母が近くにいない、出産ギリギリまで仕事をしていたので近所に知り合いもないなど、産後、子育てをパパ・ママ二人だけで担うことが多くなっています。

育児や子育て支援センターなど制度、施設の整備はすすみました。しかし、現実には産後1〜3カ月のママはパパの仕事の帰りが遅く、1日に10時間以上赤ちゃん一人きりという人が60%もいるのです。また、赤ちゃんは泣くのが仕事という言葉も死語となり、泣いたら日中も窓を閉めるママが増加。充実しているかのように見える子育て支援ですが、実は「みんな子育て」は、ほぐれ遠いのが現状です。

「たまご(他孫)育てが社会を救う？」

そこで、シニア世代の方にチカラを貸していただければと思います。昔から子どもは多くの人に抱かれ、多くの人に手をかけてもらうと幸せになる」と言われています。自分のお孫さんをおかえり、気にかける方は多いと思いますが、ぜひ他人の孫「たまご」他孫にも、ほんの少し気にかけていただければと思います。

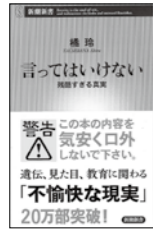
- ① 両隣に住む(両隣にお子さんがいらう) しゃらなければ、少し範囲を広げて(子どもたちの名前を覚え、あいさつのときに「おはよう、○○ちゃん」)
- ② おかえり、○○ちゃん」と名前を入れた挨拶をする。
- ③ 子どもたちの登下校時、外で遊んでいる時間に外に出る。
- ④ 地域を歩く。

そして、子育て世代は、ご近所さんのおつきあいは我が子の成長を促し、多様性を学ぶ機会として、あいさつ、ちょっとしたおしゃべりを心がけましょ。



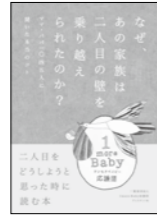
【プロフィール】棒田明子(ぼうた あきこ)
NPO法人 孫育て・ニッポン理事長
「3・3産後サポートプロジェクト」リーダー
著書、共著に「祖父母に孫をあずける賢い100の方法」
岩崎書店、「ママとパパも喜ぶ いまどきの幸せ子育て」
家の光出版、CD「孫育て童謡」監修

このコーナーでは、男女平等参画をはじめとする様々なテーマの本を紹介し、男女平等推進センター「パリティ」の図書コーナーで貸し出していますので、ぜひご利用ください。



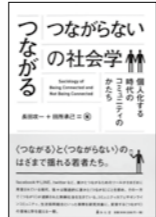
言ってはいけない
残酷すぎる真実
(新潮新書)
著者：橘玲

古代社会では、不幸な知らせを伝えた使者は斬首されたが、現代でも集団にとって不愉快なことをいう者は疎んじられ、排斥される。だが、不都合な事実を目を背けたままでは、本当の意味での平等な社会の構築が歪んでいってしまう恐れがある。いかに不都合であっても知ったうえで目指す社会を考えるべきだと考えさせる本だ。



なぜ、あの家族は二人目の壁を乗り越えられたのか? — ママ・パパ1045人に聞いた本当のコト (プレジデント社)
著者：一般財団法人1more Baby応援団

少子高齢化、人口減少社会と言われ、対策や政策がかまびすしく議論されている。そんななかで、一人目の子供はいるけど、二人目、どうしようかと悩んでいる方の背中を押してくれるのが本書である。具体的なエピソードに基づいて、いろんな経験談、アイデアが詰まっている。等身大のお話を読みやすくまとめられており、いろんな家族にフィットするお話が載っている。



つながる/つながらないの社会学—個人化する時代のコミュニティのかたち (弘文堂)
編者：長田攻一・田所承己

現代は、地域的なつながりとは別にfacebookなどの新たなつながり方が求められる。一方で個人は無縁化・孤立化し、関係の希薄さは「婚活」にも影響を及ぼす。生協やコミュニティカフェなど価値観を同じくする者同士のつながりも増え、つながり方は多様に変容する。つながる、つながらないの間に「弱いつながり」という新たな人間関係が再構築しつつあることを伝えている。

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 「女性活躍推進法」ってなに?

2015年に制定され、今年4月から施行された女性活躍推進法。果たしてこの法律では、女性の活躍を後押しするためにどのようなことが定められているのでしょうか。また、なぜこの「女性活躍推進法」が制定されることとなったのか。その社会的背景なども踏まえながら、詳しくその中身を見ていきたいと思います。

◆女性活躍推進法とは

女性が自分の意志で働き、個性や能力が十分に発揮できる社会の実現を目指して「女性活躍推進法」が制定されました。この法律は30人以上の従業員を雇用している企業の経営者が対象となっており、30人以下では努力

義務とされています。では、具体的にどのようなことが必要なのか。経営者には、まず企業内における次のような情報の把握が求められます。

- ◆従業員および管理職者の男女比率
- ◆従業員の男女それぞれの勤務年数
- ◆従業員の男女それぞれの労働時間

なかにここから、より女性が活躍できるための施策を検討。目標数値を具体的に含んだ行動計画書の作成が必要です。この行動計画書は、所属する都道府県労働局へ提出し、その内容については従業員にも通知します。さらに目標達成への取り組みについても報告義務が課され、厚生労働省のホームページで公表されます。

◆日本は女性活躍後進国

1995年、職場における男女の採用や賃金、昇格といった労働条件などを平等にする「男女雇用機会均等法」が制定。30年という時を経た現在、確かに女性の社会的地位は高まってきたと言えるでしょう。しかし、結婚・出産などで一度仕事から

離れた女性については、「能力があっても、簡単には職場復帰できない」という現実が立ちはだかっています。この子どもを産みにくい職場環境が少子高齢化の1つの要因と考えられ、結婚や子育てと仕事を両立できる社会の実現が求められています。

総務省で行った「労働力調査」の「管理的職業従事者に占める女性割合の国際比較」等の資料では、日本は12.5%でした。これはアメリカ(43.4%)やイギリス(35.4%)、フランス(31.7%)、ドイツ(29.0%)などの先進国の中で最下位という結果です(内閣府男女共同参画局ホームページ掲載)。結婚・出産によって一旦キャリアが途切れてしまう日本の実情が背景として読み取れるでしょう。

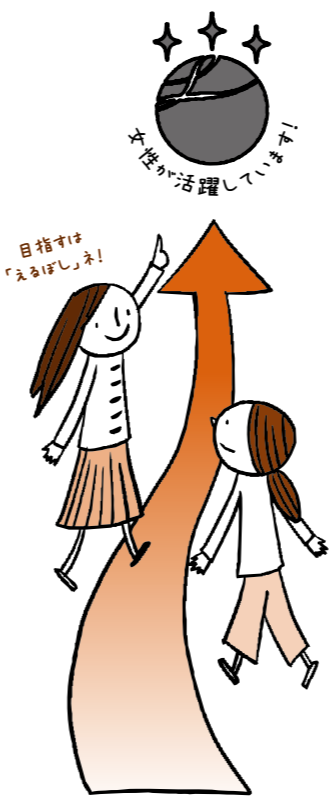
◆この法律によるメリット

「女性活躍推進法」の方針に従い、女性が活躍できる職場環境の整備へ積極的に取り組んでいる企業は、申請によって厚生労働大臣から認定を受けられることができます。この認定によって「認定マーク(えるぼし)」を商品などへ表示することが可能となり、女性の活躍を推進している優良企業として社会に広くアピールできます。またこのことは、優秀な人材確保にも繋がっています。



認定マーク「えるぼし」

少子高齢化という時代に突入り、労働人口の減少が問題視される現在。そんな中では、女性がより活躍できる職場環境の整備が重要です。男女が社会を構成する一員として互いに認め合うこと。それが、成熟した日本社会の実現には欠かせません。



No. 5

「父親の子育て」の役に立ちたい!!

ステキに男女平等参画!
「男性の活躍」編
in 西東京



▶「親にとって、子どもは大切な宝。自分が親になってからはより一層仕事に重みを感じます」と語る

大学の法学部へ進学したものの、「子どもとかかわる仕事をしたい」という思いが強くなり、卒業後に他大学へ編入して資格を取得し、保育士になりました。

私が就職した10年前は、東村山市の公立保育園全体で男性の保育士は5人でした。現在は7人いますが、今の職場で男性は私1人です。女性社会のなかでキャリアを築くのが難しかったり、民間の保育施設などでは厳しい待遇状況等によって男性が定着しにくいのかもかもしれません。結婚を機に「寿退社」し、転職していく男性保育士は少ないようです。

しかし、家庭にはお母さん(女性)とお父さん(男性)がいるように、保育園という社会にも男性の存在が必要なのではないでしょうか。体をつかって子どもたちと遊んだり、力が必要な道具を扱えると遊びの幅も広がりますし、子どもたちも多様な経験を経てイキイキと変化していきます。0歳児のころは遠まき私を見ていた子どもたちも、段々興味をもって懐いてきてくれます。私は保育園生活のなかでの父親のような役割も担っているように思うのです。



私にも1歳・4歳・6歳になる3人の子どもがいるので、最近では西東京市のパパクラブのイベントのお手伝いをしながら、地域のお父さん達と交流し情報交換しています。男同士だからこそわかりあえる部分もあるので、保育士の経験を活かし、「父親の子育て」の役に立っていると嬉しいです。

取材当日もお子さんと一緒。阿部さんが絵本を読み始めると、お話の世界に引き込まれる子どもたち

西東京市男女平等推進センター「パリテ」 企画運営委員 紹介



28年・29年度企画運営委員の皆さん(写真左から) 田崎吉則、伊東隆志、本橋里実、吉田朋子、白井香澄、中村隆敬、田村悠、松尾友治

男女平等参画社会を推進する学習、情報発信、交流の拠点である男女平等推進センター(パリテ)の企画運営は、公募による7人の市民委員によって進められています。今年6月6日に任期満了による交代があり、公募と追加公募により平成30年6月7日までの任期で新たに8人の委員が選出されました。

企画運営委員会の活動内容

年8回程度の会議を開催し、6月の男女共同参画週間、11月の女性への暴力反対週間に行う講演会と男女平等への意識啓発のためのパネル展示や年間を通しての講座等の企画立案をしています。また、年2回の情報誌パリテの発行など、西東京市の男女平等参画事業を推進するための活動を行っています。

男女平等推進センターパリテでは、市民の皆さんに事業を通して男女平等への理解を深めていただき、身近で気軽に利用していただけるセンターの運営をしていきます。

団体登録

(男女平等推進係)

男女平等参画社会の実現をめざして活動するグループを支援します。
団体登録をしていただくと、次のとおり施設をご利用いただけます。

活動室

- グループ活動や、活動の際の保育室としてご利用いただけます。(無料)
- 登録団体は2カ月前(その他の方は1カ月前)から予約申し込みができます。
- 利用時間 午前9時～午後10時

団体連絡箱

グループで作成したチラシなどを配布できるロッカーです。申請をしていただくと、ご利用いただけます。

愛称「パリテ」とは… フランス語で“平等な”という意味です。

- ◆企画・編集◆ 男女平等推進センター企画運営委員会
- ◆発行◆ 西東京市生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課 〒202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内 ☎042-439-0075
- ◆企画運営委員会委員◆ 伊東隆志、白井香澄、田崎吉則、田村悠、中村隆敬、本橋里実、松尾友治、吉田朋子
- ◆制作◆ 株式会社ドゥ・アーバン
- ▶ご意見、ご感想をお寄せください。情報誌「パリテ」は西東京市のホームページからもご覧いただけます。
<http://www.city.nishitokyo.lg.jp>



編集後記

猛暑の夏、オリンピックでは女性の活躍も眩しかったです。昔ならオリンピックどころか競技自体なかったような種目で、伸びやかに挑む姿に魅せられました。これもまた「らしさ」からの自由なのかなと感じたりも。
白井香澄

仕事、生活、子育て。一つひとつの言葉がひとり親家庭の女性にとって、重い響きを持つ。男の生きにくさも分かるけど、女も男も現実いろんな厳しさの中で生きている。頑張る、負けない、でもたまには…。
田村悠

5人兄妹の中に男1人で育ってきたこともあって当たり前のように感じていた「男らしさ」は実は「男の生きづらさ」だったのかもしれない、と今回の文章を拝読してあらためて考えさせて頂きました。
中村隆敬

男だから稼がないといけなくて、これって特に根強い世の中の思い込みだと思わない? 専業主婦でも兼業主婦でも何でもいけどみんなが楽しい人生を! 自立が大事! 新期委員は男性が4人に増えた! パリテに遊びに来てね!
本橋里実